

クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書 (改訂第3版)

(行政担当者・施設管理者の皆様へ)



2021年3月

地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所

はじめに




サクラ、モモ、ウメなど主にバラ科の樹木に発生し枯死させるクビアカツヤカミキリの被害が2015年に大阪府内で確認されてから5年が経過しました。これまで、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所は、府内の発生状況を調査するとともに、市町村から提供いただいた情報等を取りまとめ(P.5:Topic1)、また、防除技術の開発及び普及(P.7~18)に取り組んできました。一方、現時点では、府内のクビアカツヤカミキリ被害は年々拡大が続いています。

2020年2月に、大阪府は、国、市町村、民間企業、府民の皆様と連携し、効果的にクビアカツヤカミキリの防除を推進するため、「大阪府クビアカツヤカミキリ防除推進計画」(P.6:Topic2)を策定し、大阪府全域(当面は、被害発生市町村とその隣接市町を中心として)において防除活動を行うこととしました。

クビアカツヤカミキリの防除対策では、早期発見、早期防除を徹底すれば、被害を最小限に抑えることが可能です。そのためには、サクラ等のバラ科の樹木が植栽されている公園、道路、学校等の施設、山林や民有地、あるいはモモ等の果樹園において、管理者らが一致協力し、また地域住民などの協力も得ながら、外来生物法を遵守した上で(P.6:Topic3)、早期発見に向けた調査や、被害初期での迅速な防除対策への取組が重要です。

今回の改訂では、バラ科の樹木をお持ちの方々が積極的かつ効率的に防除に取り組んでいただけるよう、府内での被害状況や、技術的な対策手法等を最新の情報に更新しました。是非、クビアカツヤカミキリの被害対策に、本手引書をご活用ください。

<本手引書の内容>

1	クビアカツヤカミキリはサクラやモモの害虫	P2
2	対策とスケジュール	P3
	(1) 被害状況を調べる	P4
	(2) 農薬に頼らない防除  改訂	P7-8
	(3) 農薬による防除  改訂	P9-17
	(4) 被害木の伐採と処分  改訂	P18-19
	(5) 若木への植替え	P19
	(6) 住民への調査・防除の協力の呼びかけ	P20
	(7) 被害マップの作成・更新	P20
3	問い合わせ先	P21

1 クビアカツヤカミキリはサクラやモモの害虫 【知ろう】

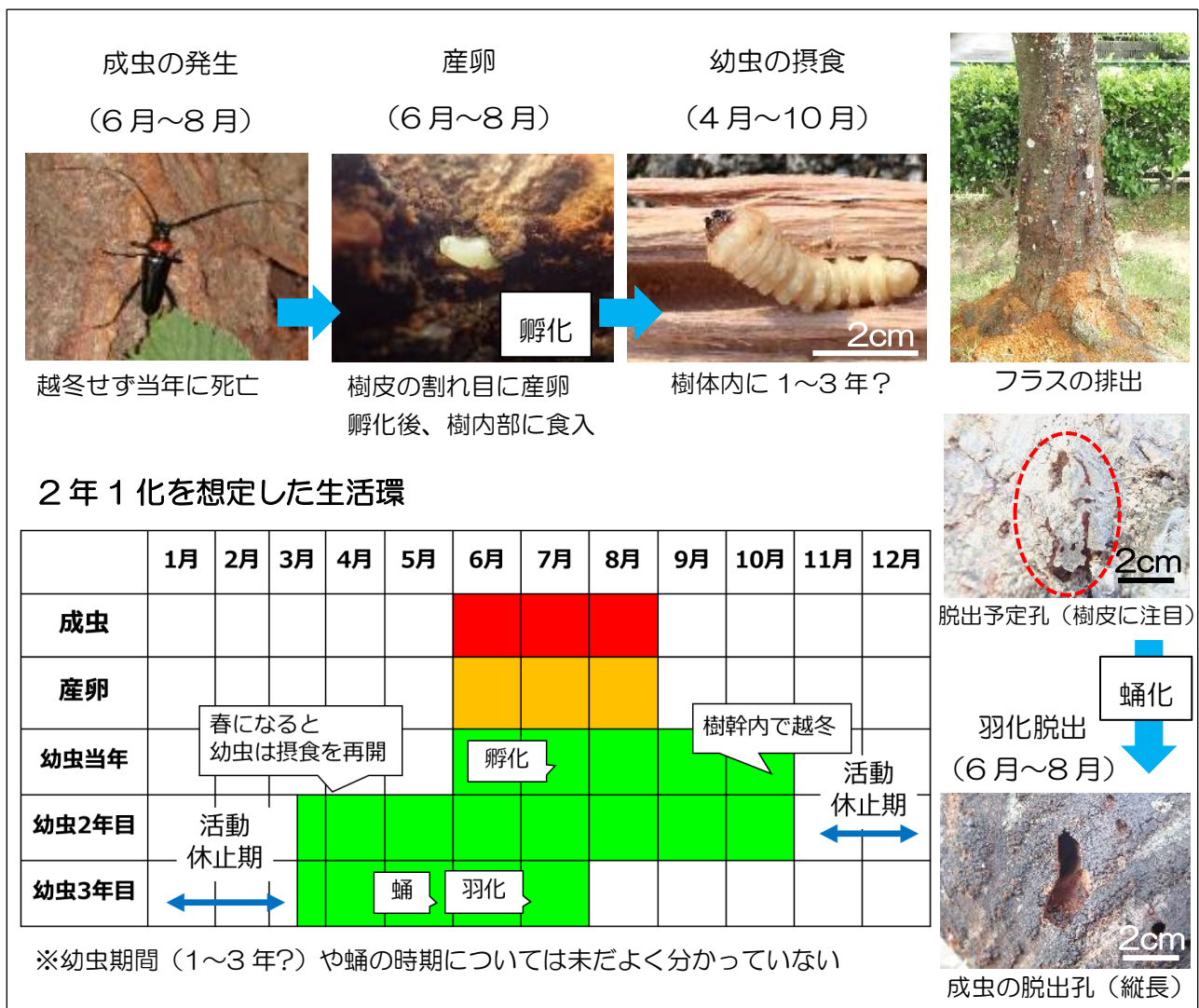
クビアカツヤカミキリ (学名:*Aromia bungii*)

- ・分類：コウチュウ目・カミキリムシ科
- ・分布：中国、朝鮮半島、ベトナムなど
- ・被害樹種：サクラ、モモ、ウメなどバラ科樹木
生きている樹木を加害し枯らす
- ・体長：2～4cm (成虫)
- ・特徴：からだ全体が黒く光沢がある
頭部の下(前胸の一部)が赤く、突起がある
成虫はジャコウのような匂いを放つ



触角が長いオス・短いメス

クビアカツヤカミキリの生活環



(1) 【見つけよう】被害状況を調べる

クビアカツヤカミキリの被害は、生きている樹木の幹や根から幼虫が排出するフラス（木くず・糞の混合物）の特徴①～③により、概ね判断することができます。



バラ科樹木には、クビアカツヤカミキリ以外にコスカシバ等のスカシバガ類やゴマダラカミキリが穿孔しフラスを排出します。

スカシバガ類のフラスの特徴は、
顆粒状で、少量です。



クビアカツヤカミキリのフラスの特徴は
薄く削り取られたフラスが大半です。

ゴマダラカミキリのフラスの特徴は、
主に地際から排出され、長い繊維状に裂
けたフラスが多く混ざります。



当研究所のHPでは、クビアカツヤカミキリに関する動画を作成しています。

「クビアカツヤカミキリについて知ろう～生態編～」では、クビアカツヤカミキリの動いている様子や、生活環・被害の見分け方等を紹介していますので、ご覧ください。

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/info/doc/2021031700057/>

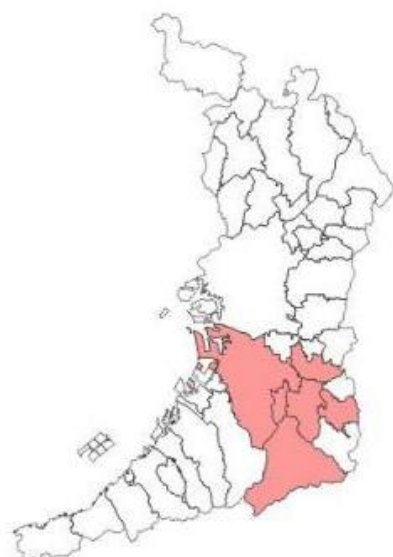


Topic1 大阪府内における被害状況

2017年7月～10月に南河内地域を中心にフラス排出の有・無から被害状況を調査し、5市1町で本種によるとみられる被害を確認しました（左図）。

2020年（10月末時点）には市町村からの被害報告により、11市2町1村での被害を確認しました。（右図）

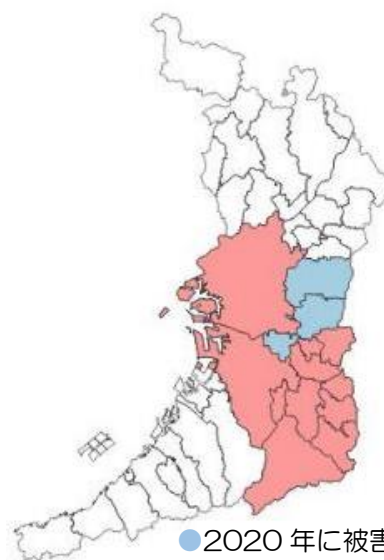
2017年



●被害あり

大阪狭山市、堺市、富田林市、羽曳野市、
河内長野市、河南町

2020年10月末時点



●2020年に被害あり

●2019年以前に被害あり

大阪狭山市、堺市、富田林市、羽曳野市、
河内長野市、河南町、大阪市、太子町、千早赤阪村、
藤井寺市、柏原市、**松原市、八尾市、東大阪市**

Topic2 大阪府クビアカツヤカミキリ防除推進計画

大阪府では、2020年2月に、府や国、市町村、民間企業、府民等が連携し、効果的にクビアカツヤカミキリの防除を推進するため、「大阪府クビアカツヤカミキリ防除推進計画」が策定されました。（<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21489/00294999/kubiakatuyakamikiri.boujyokeikaku.pdf>）

本計画は、生活環境、農業及び生態系への被害軽減と、分布域の拡大防止を目標とし、府内でのクビアカツヤカミキリによる被害の根絶に努めることとしています。また、地域の被害状況に即した対策を実施することが効果的とし、「被害発生地域」、「被害発生地隣接市町」、並びに「被害未発生地域」における防除対策や予防対策についてまとめているので、「Topic1 大阪府内における被害状況」を参考に、各地域での取組を検討ください。クビアカツヤカミキリによる被害地域の拡大を防ぐためには、早期発見、早期防除が非常に重要ですので、迅速な対応をいただければ幸いです。

Topic3 特定外来生物の指定と日本国内における被害状況

クビアカツヤカミキリは、2018年1月に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」による特定外来生物に指定されました。これにより、飼養、保管、運搬、輸入、野外への放出などが原則禁止となります。

特定外来生物は、防除対策をとらず放置しておくことと分布を拡大し、農林水産業等（モモやウメ等の果樹類）に被害を及ぼすおそれがあることから、必要に応じて駆除することとされています。また、公園等の緑化木（サクラ類）においては、被害木の枯損や落枝等が発生しないよう配慮が必要です。

2020年時点では、以下の1都1府9県で被害が報告されています。（右図）

2012年 愛知県

2013年 埼玉県

2015年 大阪府、群馬県、東京都、徳島県

2016年 栃木県

2019年 茨城県、三重県、奈良県、和歌山県



(2)【対策しよう】農薬に頼らない防除（改訂）

①成虫の捕殺

成虫は見つけ次第捕殺します。

- ・時期：6月～8月（発生ピークは6月中旬～7月中旬）

②幼虫の刺殺・掘り取り

樹幹や根から排出するフラスを掻き出し、幼虫が食入してできたトンネル（以下、坑道）内の幼虫を長い針金などで刺殺します。ただし、幼虫は樹幹内を不規則な方向に食べ進むため、坑道が曲がりくねって針金が届かないこともあります。

ノミで樹皮を剥ぎ取り、食入孔から続く坑道の先端にいる幼虫を掘り取ることができます。食入孔から細いフラスの排出が確認できる場合（参考画像：下図「掘り取り」の矢印）、その周辺の樹皮の直ぐ下に幼虫がいる可能性が高いので、刺殺や掘り取りをする食入孔を選ぶ際の目安にしてください。

※食入孔から太いフラスが大量に出ている場合（参考画像：P.4 特徴①及び②の写真）、幼虫は樹幹の奥の坑道で活動しており、発見できない可能性が高いです。掘り取りには、樹体を傷めるリスクがありますので、慎重に判断ください。

- ・時期：4月～10月（フラス排出期）
- ・必要な物品：千枚通し、針金、硬めのブラシ（できれば金属製ブラシ）、ノミなど



(1) 食入孔周辺の樹皮をノミで剥ぐ
フラスの排出がある食入孔を探し、
その周辺の樹皮を剥ぎ、坑道を確認する。

(2) 坑道をたどり、幼虫を掘り取る
坑道内で新鮮なフラスが詰まっている
方向に樹皮を剥ぎ続けて、先端にいる
幼虫を掘り取る

③防風・防虫ネット利用による分散防止

防風ネット等を被害樹の樹幹に巻き付けて樹から脱出した成虫を殺虫し、ほかの樹への移動を防ぎます。なお、防風ネット等を巻き付けることが困難な部位（例えば、高さ2m以上の地点からフラスの排出が確認された枝など）は、伐採して取り除き、適切に処分してください（処分方法は、P.18）。

- 時期：防風ネット等の巻き付け作業は10月～翌5月（成虫の発生前まで）に行い、6月～8月に樹から出てきた成虫をネット内で殺虫します。
- 必要な物品：防風・防虫ネット（目合い0.4～4mm程度、幅1～2m、例えば、農業用防風ネット等市販品で良い）、針金、ひも、ペグなど
- 被害部位が収まるように巻き付け（目安：高さ2m程度まで）、針金やひもで固定します。防風ネットを樹幹に密着させると成虫が防風ネットを噛み切るので、防風ネットを二重にするなど、樹幹との間に余裕を持たせます。根元に生息することもあるので、根元の防風ネットはペグで固定します。



防風ネットの設置



樹幹と余裕を持たせる



ネットを噛み切る成虫

注意 防風ネット内で成虫が交尾・産卵したり、隙間から脱出したりするため、定期的に見回り、見つけ次第ハンマーや針金（できるだけネットを傷つけない方法）、あるいは、化学農薬の成虫への噴射により（樹木類のみで登録あり。使用方法は、P. 13）、殺虫します。また、9月には防風ネットを除去し、被害樹に農薬を処理します（処理方法は、P. 9）。

防風ネット巻き付けの詳しい手順は、当研究所のホームページ

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/info/doc/2021031700057/>
にある動画「クビアカツヤカミキリについて知ろう～ネット巻き編～」をご覧ください。



(3) 【対策しよう】 農薬による防除（登録内容は2021年2月28日現在）

＊注意＊ 農薬を使用する際は使用基準（「適用作物」、「使用方法」、「使用量および希釈倍数」、「使用時期」、「総使用回数」）を遵守する必要があります。違反の場合は農薬取締法により罰則が科せられるため、農薬ラベルをよく読んで使用します。

①化学農薬による防除

【幼虫の防除（食入孔に薬剤を注入）】

- ・必要な物品：千枚通しや硬めのブラシ（できれば金属製ブラシ）、ゴーグル、マスク、ゴム手袋、防除衣（雨合羽など）、噴霧器など
- ・農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。
- ・幼虫のフラス排出期の4～10月に処理します。
- ・樹幹や根から排出するフラスを掻き出し、食入孔（木くず排出孔）に薬液を注入して樹内の幼虫を殺虫します。



(1) 食入孔を探す
樹幹や根から排出するフラスをブラシなどで除いて探す。見つからない場合はフラスが落ちている場所の上部をこまめに探す。

(2) フラスを掻き出す
食入孔にフラスが詰まっていると薬液が幼虫まで届かないため、千枚通しなどで掻き出す。

(3) 薬液を注入する
食入孔にノズルを差し込み、噴射する。薬液を食入孔に充填させるため、食入孔から薬液が少しあふれるまで噴射する。

＊＊登録農薬＊＊

◆ロビンフッドまたはベニカカミキリムシエアゾール

有効成分はフェンプロパトリン 0.02% ピレスロイド系（IRACコード 3A）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
樹木類 (サクラを含む)	かみきり類	—	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	—	6回以内
もも、うめ、おうとう				収穫前日まで	5回以内
果樹類(※を除く)					

※：かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちょう(種子)、くり、パカン、アーモンド、くるみ、食用つばき(種子)

◆園芸用キンチョールE（サクラのみ）

有効成分はペルメトリン 0.2% ピレスロイド系（IRAC コード 3A）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	—	【専用ノズルつけかえ方式】 容器のノズルを引き抜き、専用ノズルにつけかえ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。 【2ウェイノズル方式】 折り畳まれた専用ノズルを引き上げ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する。	—	—

◆マツグリーン液剤2（サクラのみ）

有効成分はアセタミプリド 2.0% ネオニコチノイド系（IRAC コード 4A）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	50倍	食入孔に注入	発生初期	5回以内

◆アクセルフロアブル（サクラのみ）

有効成分はメタフルミゾン 25.0% セミカルバゾン系（IRAC コード 22B）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	100倍	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	—	6回以内

※マツグリーン液剤2 とアクセルフロアブルは、スプレー缶で薬液を注入するタイプではなく、所定の濃度に希釈した農薬を噴霧器等で注入します。

【幼虫の防除（樹幹に開けた穴に薬剤を注入）※サクラのみ】  改訂

- 必要な物品：ゴーグル、マスク、ゴム手袋、メジャー、電動ドリル、傷口癒合剤（薬液注入穴を蓋する資材）
- 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。
- サクラの新葉展開後から落葉まで（4月下旬～10月上旬）に処理します。
- 樹幹の地際部に注入穴を開け、木の大きさに応じた規定量の薬液を注入します。注入した薬液が樹体に浸透したことを確認し、注入穴を傷口癒合剤等でふさぎます。
- 幼虫は吸い上げられた薬剤を含んだ木質部を摂食することで死亡します。



(1) 木の大きさを測定する
根元の樹幹部直径等をメジャーで測定し、使用薬液量（や薬液注入穴の数）を決める。

(2) 地際に薬液注入穴を作成する
樹幹の地際に電動ドリルで薬液量に応じた数の注入穴を、樹体の斜め下向きに開ける。腐朽した部位は薬液の浸透が悪いので避ける。

(3) 注入穴に薬液を注入し蓋する
注入穴に規定量の薬液を注入する。薬液が樹体内に浸透したことを確認し、注入穴を傷口癒合剤等で蓋をする。

※写真（3）はウッドスターの場合で、ウッドスター専用薬液注入器で注入します。アトラック及びリバイブの場合は、薬液が入っているアンプルを注入穴に差し込み注入します。

登録農薬

◆ウッドスター（サクラのみ）

有効成分はジノテフラン 8.0% ネオニコチノイド系（IRAC コード 4A）

作物名	適用害虫名	使用量（樹当たりの薬液注入量）	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	注入部直径 6cm～10cm:8～12ml、10cm～20cm:12～24ml、20cm～30cm:24～36ml、30cm～40cm:36～48ml、40cm～50cm:48～60ml、50cm～60cm:60～72ml、以降、直径が10cm増す毎に12mlを追加する	樹幹注入	新葉展開後～落葉前まで	3回以内

◆アトラック液剤（サクラのみ）

有効成分はチアメトキサム 4.0% ネオニコチノイド系（IRAC コード 4A）

作物名	適用害虫名	使用量（樹当たりの薬液注入量）	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	胸高直径（樹幹部） 6cm～10cm 30ml、11cm～15cm 60ml、16cm～20cm 90ml、21cm～25cm 120ml、26cm～30cm 180ml、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30～60mlを増量する	樹幹注入	幼虫発生前～幼虫発生期	3回以内

◆リバイブ（サクラのみ）

有効成分はエマメクチン安息香酸塩 1.9% アベルメクチン系（IRAC コード 6）

作物名	適用害虫名	使用量（樹当たりの薬液注入量）	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	胸高直径（樹幹部） 6cm～10cm 30ml、11cm～15cm 60ml、16cm～20cm 90ml、21cm～25cm 120ml、26cm～30cm 150ml、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30mlを増量する。	樹幹部に注入孔をあげ、注入器の先端を押し込み樹幹注入する。	発生前～発生期	1回

【幼虫の防除（被害木を伐倒し薬剤でくん蒸）】 改訂

- 必要な物品：ゴーグル、マスク、ゴム手袋、防除衣（雨合羽など）、くん蒸シート
- 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。
- 蛹や成虫の羽化脱出時期を避けて（9月～3月）処理します。気温が低い時期や、日陰の場合には、くん蒸期間を長くします。使用場所を十分に検討してください。
- 集積した伐倒木全体をくん蒸シートで覆い、くん蒸剤を処置した後、ガス漏れしないように地面に接したシートの部分に土を被せます。
- 幼虫は気門を通してガス化した薬剤を取り込み死亡します。

＊＊登録農薬＊＊

◆ヤシマ NCS

有効成分はカーバム（N-メチルジチオカルバミン酸アンモニウム）50.0%
メチルイソチオシアネートジェネレーター系（IRACコード8F）

作物名	適用害虫名	使用量	くん蒸時間	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ(伐倒木) もも(伐倒木) うめ(伐倒木) すもも(伐倒木)	クビアカ ツヤカミキリ 幼虫	被覆内容積 1m ³ 当り 原液1.0L	14日以上	加害された伐倒木を配置し 本剤を散布し、直ちにビニール 等で密閉し、くん蒸する。	-	1回

◆キルパー40

有効成分はナトリウムニメチルジチオカルバマート 42.0% メチルイソチオシアネートジェネレーター系（IRACコード8F）

作物名	適用害虫名	使用量	くん蒸時間	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ(伐倒木、枯損木) もも(伐倒木、枯損木) うめ(伐倒木、枯損木) すもも(伐倒木、枯損木)	クビアカ ツヤカミキリ	被覆内容積 1m ³ 当り 原液750～ 1500mL	14日以上	加害された伐倒木を集積 したものまたは枯損木に、 所定薬量を散布し、直ち にビニール等で密閉し所定 期間くん蒸する。	-	1回



ナラガシワ（対象虫：カシノナガキクイムシ）でのくん蒸例



くん蒸シートで密閉

【成虫の防除（成虫に薬剤を噴射）】 改訂

- 必要な物品：ゴーグル、マスク、ゴム手袋
- 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。
- 成虫発生期（6月上旬～8月下旬）に処理します。
- 薬液を成虫に直接噴射します。

虫に直接触れずに、殺虫することができます。

＊＊登録農薬＊＊

◆ロビンフードまたはベニカカミキリムシエアゾール

有効成分はフェンプロパトリン 0.02% ピレスロイド系（IRAC コード 3A）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
樹木類	クビアカツヤカミキリ（さくら）	—	噴射	成虫発生初期	6回以内

【成虫の防除（樹に薬剤を散布）】 改訂

- 必要な物品：ゴーグル、マスク、ゴム手袋、防除衣（雨合羽など）、バケツ、噴霧器
 - 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。
 - 成虫発生直前から成虫発生期（6月上旬～8月下旬）に複数回処理します。
- 調整希釈した薬液を樹に丁寧に散布します。

＊＊登録農薬＊＊

◆マツグリーン液剤2

有効成分はアセタミプリド 2.0% ネオニコチノイド系（IRAC コード 4A）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	200倍	散布	発生初期	5回以内

◆モスピラン顆粒水溶剤・日農モスピラン顆粒水溶剤

有効成分はアセタミプリド 20.0% ネオニコチノイド系（IRAC コード 4A）

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	発生初期	5回以内
もも、うめ、すもも、おうとう、小粒核果類（うめ、すももを除く）				収穫前日まで	3回以内

◆アクセルフロアブル

有効成分はメタフルミゾン 25.0% セミカルバゾン系 (IRAC コード 22B)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	200倍	主幹から株元に散布	成虫発生直前～成虫発生期	6回以内
うめ		1000倍	散布		

◆スミパイン乳剤 (住化、サンケイ、ヤシマ)

有効成分は MEP80.0% 有機リン系 (IRAC コード 1B)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
樹木類	カミキリムシ類 (スギカミキリを除く)	50～150倍	樹幹散布	成虫の発生初期 又は直前	6回以内
樹木類 (倒木、伐倒木)			散布	伐倒・風倒直後樹皮 下及び材内生息期	

◆トルネードエース DF

有効成分はインドキサカルブ 5.0% オキサジアジン系 (IRAC コード 22A)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生初期	4回以内

◆ダブルトリガー液剤

有効成分はシクラニリプロール 4.5% ジアミド系 (IRAC コード 28)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	発生初期	2回以内

◆ダントツ水溶剤、ベニカ水溶剤

有効成分はクロチアニジン 16.0% ネオニコチノイド系 (IRAC コード 4A)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカツヤカミキリ	2000倍	散布	成虫発生初期	5回以内
うめ				収穫前日まで	3回以内
もも				収穫7日前まで	

◆オリオン水和剤 40

有効成分はアラニカルブ 40.0% カーバメート系 (IRAC コード 1A)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ	クビアカ ツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生期	5回以内
うめ、小粒核果類				成虫発生期但し、 収穫7日前まで	3回以内
もも				成虫発生期但し、 収穫14日前まで	2回以内
ネクタリン				成虫発生期但し、 収穫21日前まで	

◆スプラサイド水和剤

有効成分は DMTP36.0% 有機リン系 (IRAC コード 1B)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
うめ、すもも	クビアカ ツヤカミキリ	1500倍	散布	収穫14日前まで	2回以内
もも				収穫21日前まで	

◆スプラサイド M

有効成分は DMTP30.0% 有機リン系 (IRAC コード 1B)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
もも	クビアカ ツヤカミキリ	200倍	樹幹部及び主枝に散布	収穫60日前まで	2回以内

◆アクタラ顆粒水溶剤

有効成分はチアメトキサム 10.0% ネオニコチノイド系 (IRAC コード 4A)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
もも、ネクタリン	クビアカ ツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
おうとう					2回以内
うめ 小粒核果類 (うめを除く)				収穫7日前まで	

◆テッパン液剤

有効成分はシクラニリプロール 4.5% ジアミド系 (IRAC コード 28)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
もも、すもも	クビアカ ツヤカミキリ	2000倍	散布	収穫前日まで	2回以内

◆ハチハチフロアブル

有効成分はトルフェンピラド 15.0% METI 剤系 (IRAC コード 21A)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
もも、ネクタリン	クビアカツヤカミキリ	1000倍	散布	成虫発生期但し、収穫前日まで	2回以内

②生物農薬による防除

【幼虫の防除（食入孔に薬剤を注入）】

- 必要な物品：ゴーグル、マスク、ゴム手袋、防除衣（雨合羽など）、噴霧器
- 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。

＊＊登録農薬＊＊

◆バイオセーフ（天敵線虫製剤）

- 有効成分は、スタイナーネマ・カーポカプサエ オール株 250万頭/g
- 幼虫のフラス排出期である4～10月に処理します。
- 薬剤を注入する前に、食入孔の木屑を水で洗浄除去します。薬剤を隣接する食入孔から溢れ出すまで十分量を注入することで、樹内の幼虫を殺虫します。
- 生きている線虫を使った製剤です。乾燥や高温は線虫の活性の低下を招くため、処理時は曇天が望ましいです。入手後すぐに使用しない場合は、冷蔵庫で保管します。



(1) フラスを掻き出す
食入孔に詰まっている木屑を水で洗浄除去する。逆流する水にフラスが含まれなくなるまで行う。



(2) 農薬の濃度を調整する
農薬の濃度がラベル通りになるように水で希釈する。乾燥や高温の条件下では線虫の効果が落ちるので使用はさける。



(3) 薬液を注入する
食入孔に噴霧器の先端部を差し込み、薬液を注入する。隣接する排出孔から溢れ出すまで十分量を注入する。

作物名	適用害虫名	希釈倍数 又は使用量	使用液量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ、食用サクラ（葉）、うめ、もも	クビアカツヤカミキリ	2500万頭（約10g）	2.5L	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	—

【成虫の防除（樹幹への殺虫資材の巻き付け）】

- 必要な物品：ゴーグル、マスク、ゴム手袋、ホッチキス
- 農薬使用時はゴーグルやマスクなどを着用します。

＊＊登録農薬＊＊

◆バイオリサ・カミキリ スリム（昆虫病原性糸状菌製剤）

有効成分は、ボーベリア ブロンニアティ 1×10^7 cfu/cm²

昆虫病原性糸状菌が付着した不織布を樹幹の分枝部分等にかけて設置します。

成虫が触れることで感染し、約2～3週間で死亡させます。

- 成虫発生初期の大阪府内では例年6月上～中旬に設置します。
- サクラおよび食用サクラ（葉）に使用する場合は、本剤を樹の太さに合わせて切断および接着させて、樹幹の地際からの高さ20～50cmの位置に巻き付けます。
- 感染していても死亡までに2～3週間を要し、その間に成虫は交尾・産卵するので、成虫を見つけ次第捕殺します。
- 生きている菌を使った製剤なので、入手後すぐに使用します。

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
サクラ 食用サクラ（葉）	クビアカ ツヤカミキリ	—	1樹あたり 1本	主幹または主幹の 分枝部分に巻き付ける	成虫発生 初期	—
果樹類	カミキリムシ類		1樹あたり 1本	地際に近い主幹の 分枝部分等にかける		



イチジクでの使用例



昆虫寄生菌に感染・致死したクビアカ

(4)【防除しよう】被害木の伐採と処分 (改訂)

被害木を伐採し破砕あるいは焼却して適切に処分を行うことは、被害の拡散を防止する観点から、最も有効な防除方法のひとつです。被害を受け枯死・衰弱した木は、強風などにより倒木・落枝が発生しやすくなることから早期に伐採することを検討ください。



- ・伐採時期： 9月～翌年4月（成虫の脱出時期以外）
- ・伐採木（剪定枝を含む）の処理：破砕、焼却
- ・留意事項：
 - 飛び地的にフラス被害が確認された被害木は、周辺への被害拡散の可能性を考慮し、直ちに伐採し破砕もしくは焼却を検討してください。ドイツでは、発生初期に伐採や処理を徹底することで被害拡散の防止に一定の成果をあげています。
 - 防除が困難な部位に被害が見られる枝は、分岐している箇所から切除してください。
 - 切株を極力残さないように、出来るだけ地際で伐採してください。

- 「外来生物法」は指定された種の保管や運搬等を禁止していますが、クビアカツヤカミキリの運搬及び保管については環境省から通知「外来生物法の規制に係る運用（クビアカツヤカミキリの運搬及び保管）」(https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/files/190326kubiaka_tsuuchi.pdf) が発出されていますので、被害木を処分する前に内容を必ずご確認ください。



- 伐採木は、以下のいずれかの方法で処理してください。

①破砕

現地でチップパーにより破砕、又は近隣のチップ工場で破砕してください。チップの厚さは10mm以下程度としてください。

②焼却処分

市町村の清掃工場で焼却可能な場合は、伐採木を防風ネット又はビニールシートで覆って飛散防止措置をした上で運搬し、焼却処分してください。

③シート被覆

直ちに破砕又は焼却処分を行うことが困難な場合は、伐採木を防風ネット又はビ

ニールシートで覆い、地際部をペグ等で密閉してください。

- 伐採と同時に伐根可能な場合は伐根し、上記①または②の処分をしてください。伐根できない場合、切株を防風ネットで覆い、上部をさらにビニールシートで二重に被覆してください（3年程度）。



・伐採木の破碎
伐採木をチップパーなどを用いて、厚さ10mm以下を目安としてチップ化する。



・運搬前の伐採木の被覆
伐採木を防風ネット又はビニールシートで覆って飛散防止措置をした上で運搬する。



・伐採後の根株の被覆
根株を防風ネットで覆い、上部をさらにビニールシートで二重に被覆する。

(5) 【再生しよう】若木への植替え

被害地の回復を図るためには、若木への植替えを行うことを検討ください。

同じ種類の若木を植えた場合、再び被害を受ける可能性があるため、継続した防除対策が必要となります。そのため、クビアカツヤカミキリ対策の手間やコストがかけられない場合は、被害を受けない植物（バラ科以外）への植替えも検討しましょう。

- ・植付け時期：厳寒期を除く落葉期（12月～3月頃）
- ・留意事項：若木の成長促進や連作障害を避けるため、土壌の深耕や土壌改良資材の投与についても検討ください。

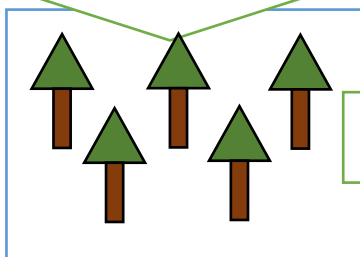


バラ科以外の若木に植替え

同種・近縁種の若木に植替え



対策の継続



クビアカツヤカミキリによる被害を受けずに成長



図 被害木の伐採～若木への植替えのイメージ

Topic4 特定外来生物の防除対策に係る交付金事業の概要について

環境省は、「生物多様性保全推進支援事業」により、地域における生物多様性の保全再生に資する活動等に対し、活動等に必要経費の一部（1/2以下）を交付しています。特定外来生物防除対策（単なる伐採ではなく、対象種の防除を行うもの）も交付対象メニューとなっています。事業申請者は、「地方公共団体、もしくは、地域生物多様性協議会（地方公共団体等と、その他の主体で構成）」となります。例年、1～2月頃に募集が行われますので、活用を検討してください（年度ごとに事業の有無や公募要領を環境省HP等でご確認ください）。

なお、応募のあった事業の中から予算の範囲内で採択する事業が決定されますので、全ての事業に対して交付されるものではないとのことです。

（6）【再生しよう】住民への調査・防除の協力の呼びかけ

対策にあたっては、学校や公園、各個人の敷地での成虫の捕殺や見回りなど地域の住民の協力を得ながら取り組むことが効果的です。

公園等の施設においては、ネット巻きした樹木に捕らえられた成虫を逃がしたり、持ち帰ったりしないよう来訪者等への広報も重要です。

・留意事項：

- 特定外来生物は飼育等が禁止されています（P.6：TOPIC3 特定外来生物の指定）。
- なお、外来生物法施行規則第2条（飼養等の禁止の適用除外）12項において、「地方公共団体の職員がその職務の遂行に伴い、緊急に引き取り、処分するために一時的に保管又は運搬をするものであること。」が定められています。



飼育せずすぐに捕殺する!!

（7）【再生しよう】被害マップの作成・更新

防除対策を計画的に進める上では、「どこに、どれだけいるか」という被害マップを作成・更新することが効果的です。

視覚的に被害状況を把握することで、例えば、飛び地的に被害が発生した地区の対策を優先するなど、計画的な防除が行いやすくなります。

3 問い合わせ先

クビアカツヤカミキリについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

【外来生物法・特定外来生物に関すること】

環境省 近畿地方環境事務所 野生生物課

電話：06-6881-6505

大阪府 環境農林水産部 みどり推進室 みどり企画課 総務・自然環境グループ

電話：06-6210-9557

【農地や果樹園での被害に関すること】

大阪府 環境農林水産部 農政室 推進課 病害虫防除グループ

電話：072-957-0520

【輸出入（植物検疫）に関すること】

農水省 神戸植物防疫所 大阪支所 輸出及び国内検疫担当

電話：06-6571-0804

【本手引書に記載の内容等に関すること】

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 食と農の研究部 防除グループ

電話：072-979-7037

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 生物多様性センター

電話：072-833-2770